

ダイレクト収穫体系による 「稲麦ホールクロップサイレージの生産技術」

水田を有効に活用して飼料増産を図るためには、飼料イネの裏作に飼料用麦類を導入することも必要です。そのためには、地域に適した二毛作体系に用いる品種選定や作型を提示するとともに、迅速な作物の切換えや作業競合を回避する技術、家畜堆肥や液肥の有効的な利用法、飼料用麦類の家畜への利用技術等を確立する必要があります。そこで、二毛作限界地帯から関東東海や九州地域における「ダイレクト収穫体系による飼料用稲麦二毛作技術マニュアル」を策定しました。

☆ 技術の概要

1. 飼料イネの専用品種は、これまでに多くの品種が育成されており、二毛作に用いる専用品種も、これらの中から、各地域に適した品種で、早生品種を中心に選定します。一方、飼料用として育成されたオオムギ品種は少ないことから、飼料用品種に加え、食用品種の中から、穂部と茎葉部を合わせた全体（ホールクロップサイレージ：WCS）が多収な品種を選定します。なお、排水不良田では、コムギも多収が見込まれる品種を選定すれば、飼料用として利用できます。
2. 作業競合を回避する技術として、麦立毛間飼料用イネ V 溝播種技術を導入することで、飼料イネの播種期が2月下旬から3月上旬（東海地域）の農閑期となり、春季の作業競合を回避でき、年間で1.8t/10a以上の実乾物収量が確保できます。
3. 飼料イネには乳牛曝気尿液肥、飼料オオムギには家畜堆肥を活用した栽培技術を導入することによって、化学肥料を低減でき、関東地域では年間実乾物収量で2.0t/10a以上が確保できます。
4. 糊熟期にダイレクト収穫で調製したオオムギおよびコムギのWCS（水分70%程度）を主な粗飼料源として、乾物で30%程度混合した発酵TMR（配合飼料や豆腐粕等と混合）の嗜好性は良好で、乳生産や飼養成績に影響はなく、チモシー乾草の代替飼料として利用できます。

東北、関東、東海地域における飼料用稲麦二毛作に適する主な品種と作型の例

調査地	草種	品種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	乾物実収量 (kg/10a)
宮城県 大崎市	イネ	夢あおば ホシアオバ						○			△	△	×	×	1,299
	オオムギ	シュンライ					△	×					○		608
群馬県 前橋市	イネ	夢あおば						○			△	×			1,090
	オオムギ	シュンライ ワセドリ2条				△	△	×	×				○		959
三重県 松坂市	イネ	タチアオバ		○	○		◇				△	×	×		1,097
	コムギ	食用品種 (地域普及品種)				△	△	×	×				○	○	736

注)○:播種または移植日、△:出穂期、×:収穫期、◇:出芽期、乾物実収量は2ヶ年(2010-2011年、2011-2012年)における稲および麦の平均収量

☆ 活用面での留意点

1. 本マニュアルの詳細な情報は以下の URL を参照してください
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/048822.html
2. 詳細については、畜産草地研究所・情報広報課（電話：029-838-8611、問い合わせフォーム <https://www.naro.affrc.go.jp/nilgs/inquiry/tech.html>）にお問合せください。
 （農研機構 畜産草地研究所 家畜飼養技術研究領域 浦川修司）